

令和8年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立北山中学校

4月から5月にかけて、文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童・生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育の改善を図るとともに、児童・生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

調査期日 令和8年4月23日（木）

(注)中学校英語及び質問調査については、オンライン方式（CBT方式）のため、調査日を分散して実施

調査の対象学年 中学校第3学年

調査の内容

(1) 教科に関する調査

国語、数学、英語（英語は一人一台端末を用いたCBT方式）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
調査問題では、上記①と②を一体的に問うている。

(2) 質問調査（1人1台端末を用いたCBT方式）

児童生徒に対する質問	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
学校に対する質問	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

教科に関する調査結果及び考察について

- ・ 全国学力・学習状況調査は、小学6年生及び中学3年生を対象に、国語、算数・数学、英語について実施されています。
- ・ また、調査問題は、各教科の一部の内容について出題されているものであり、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり、「学校教育活動の一側面」です。
したがって、調査結果を見る際には、この点をご理解いただいた上で、ご覧ください。
- ・ 中学校英語のみ「IRTスコア」による公表です。

【参考】

- IRTとは、項目反応理論（Item Response Theory）と呼ばれる統計理論のことで、生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、生徒の学力によるのかを区別して分析し、生徒の学力スコアを推定することができる。
- IRTでは、これまでのように、同一の問題セットを生徒が一斉に解答し、その正答数によって正答率を算出する調査とは異なり、複数の問題セットが用意され、個々の生徒が異なる問題セットを解答しても、生徒の学力スコアを推定することができる。
- 各学校や自治体に提供されるIRTスコアは、500を基準にしたスコアで示される。

調査結果及び考察

質問調査

佐賀市学校教育ビジョンに関わる設問より（キーワード：自律・尊重・創造・主体性・当事者意識）

《質問領域：主体的・対話的で深い学び》

（注）数値は「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」等、肯定的な回答の割合（％）

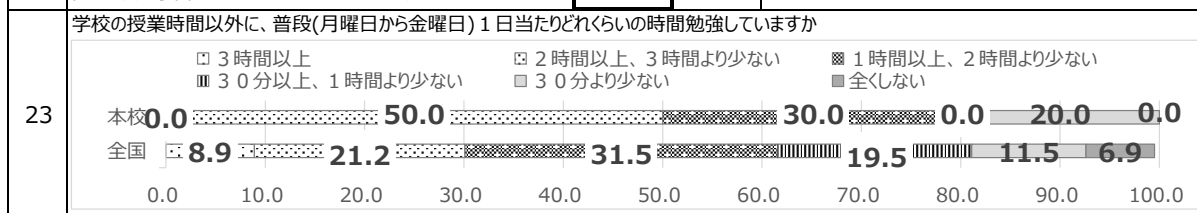
質問番号	質問事項	本校（％）	全国（％）
39	前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	70.0	78.8
42	学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	90.0	87.0
46	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	90.0	92.4

本校の調査結果 ※◎（強み）、●（課題）

- ◎授業の中で級友と話し合う活動を通して考えを深めたり、新たな考えに気づくことができています。
- ◎学んだことや解決したい課題を見つけ、次に活かそうとしています。
- 自分の勉強の仕方を考え、工夫することに課題があるようです。
- 学習時間も全国に比べ、一時間以上学習する割合が少なくなっています。

《質問領域：主体的な学習の調整、学習習慣》

22	分からないことやよく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	60.0	78.2
43	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	80.0	79.0



《質問領域：自己肯定感、幸福感 等》

8	自分には、よいところがあると思う	90.0	84.0
10	将来の夢や目標を持っている	60.0	67.6
15	学校に行くのは楽しいと思う	100.0	85.4
21	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	100.0	91.0

本校の調査結果 ※◎（強み）、●（課題）

- ◎自己肯定感や幸福感が高く、学校に行くことを全校生徒が楽しく感じています。
- ◎全員が人の役に立ちたいと思っており学校生活を送っています。
- 将来のことについては、全国平均に比べ、下回り、まだ、夢や目標をはっきりと持っている生徒が若干全国平均より下回ります。
- 地域や社会をよくするために、何かしようと思っている生徒が半数となっています。

《質問領域：向社会性》

14	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	100.0	95.9
33	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	50.0	72.3

調査結果を受けて

【学校では】

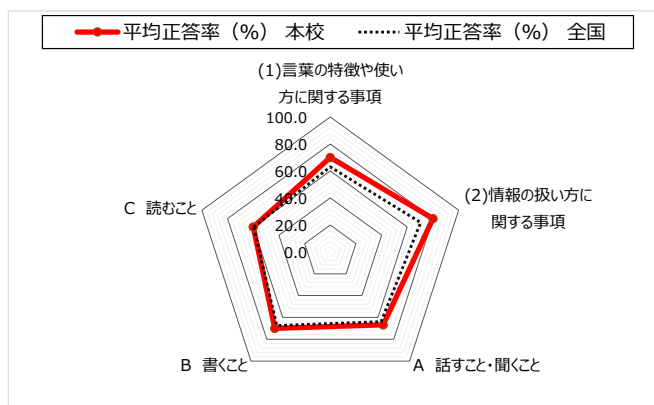
- 校内研修を通し、小中一貫校ならではの9年間の学びを通して、生徒に主体的・対話的な学びを通して、自分の学びを深めることのできる生徒を育成するために、授業研究を行います。公開授業や授業実践シートの研究、日々の授業の中で生徒同士の対話力が育まれるように支援をしていきます。
- 特別活動や行事、儀式等を通して、創造的・協同的な学びを実践し、生徒たちの自律した活動、学校全体のまとまりを目指した活動を実践していきます。

【ご家庭では】

- 家族の触れ合いを通して、人に対する信頼感、豊かな情操、基本的生活習慣など、心のよりどころとしての子供たちが身近に接する社会としての役割を引き続きお願いしたいと思います。
- 地域の強みを活かした、地縁的なつながりや人との関係をよりつながりやすくするような家庭教育の大切さを共有しつつ、様々な行事に参加していただきたいと思います。パンフレットやチラシ等、ご参考になさってください。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容		平均正答率 (%)	
		本校	全国
知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	70.0	63.0
	(2)情報の扱い方に 関する事項	80.0	70.4
思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	66.7	63.9
	B 書くこと	70.0	67.4
	C 読むこと	60.0	59.7



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	74.4	72.7
短答式	63.3	55.8
記述式	53.3	45.5

結果 ※◎ (強み)、●課題

- ◎ すべての内容において、正答率が全国平均の正答率を上回りました。
- ◎ 特に、知識及び技能の分野において正答率が高く、基礎的な言語事項や情報の取り扱い方に関しては概ね身についていることが分かります。
- 段落相互の関係を明確にし、文章の展開を工夫する力には課題が見られます。さまざまな初見の文章を読み、全体を通して構成を捉える経験をさらに充実させる必要があります。

《正答率の高い問題》【強み】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
1 一	助動詞の働きについて理解しているかどうかをみる	100.0	84.7
3 二	表現の効果を考えて描写することができるかどうかをみる	100.0	92.3

《正答率の低い問題》【課題】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
3 三	段落相互の関係を明確にし、文章の展開を工夫することができるかどうかをみる	40.0	61.1
4 四	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにするかどうかをみる	40.0	35.3

調査結果を受けて

【学校では】

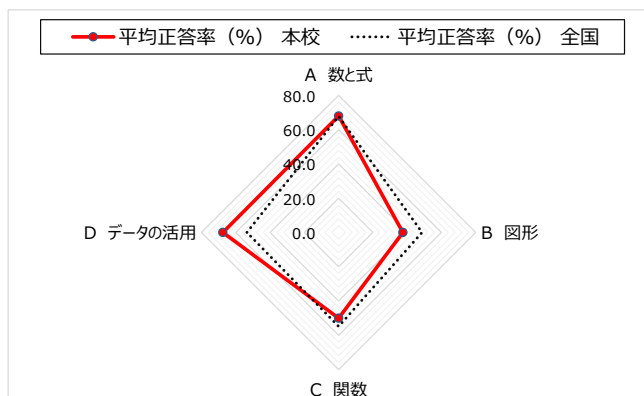
- 教科書の本文はもちろんのこと、他のさまざまな初見の文章を読み、大まかな構成や内容を捉える活動を増やします。
- 問題内に書かれている条件を捉え、それを踏まえて書く活動を増やします。また、書き終わった後、自身の作文内容が条件に沿ったものであるか確認する活動を増やします。

【ご家庭では】

- 文章を読む際は、全体と詳細の双方に焦点を当てることが大切です。ご家庭でも、お子様が読んでおられる本や新聞の内容についてぜひ話題にしてみてください。読んだ内容や構成の工夫、その感想について自分の言葉で伝えることは、「内容や構成を正しくとらえ、言葉で表現する力」を育む練習になります。
- 実力テストや定期テストの結果は、自身の強みや課題等、自己分析をする際の、有効な資料です。ぜひ一緒にご覧ください。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容	平均正答率 (%)	
	本校	全国
A 数と式	68.0	67.8
B 図形	37.5	48.7
C 関数	50.0	54.8
D データの活用	67.5	53.5



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	60.0	59.3
短答式	61.1	64.2
記述式	45.0	39.1

結果 ※◎ (強み)、●課題

◎ 今回の調査では、記述式の問題の平均正答率が、全国平均正答率を上回りました。『学び合い』活動を通して、学習内容について議論する授業の成果が表れていると考えられます。

● 「図形」の領域の、角の大きさを求める問題の正答率が全国平均より下回っていました。対象となる図形を多面的に観察し、図形の性質を基に角や辺の関係性を見出す経験を増やしていくことが重要であると考えます。

《正答率の高い問題》【強み】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
9 (1)	累積度数の意味を理解しているかどうかをみる	70.0	46.0
9 (3)	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することができるかどうかをみる	60.0	31.9

《正答率の低い問題》【課題】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
4	反比例の関係を表す表の特徴を捉えて、x の値に対応する y の値を求めることができるかどうかをみる	40.0	55.3
8 (1)	具体的な事象において、考察の対象となる角を的確に捉えることができるかどうかをみる	30.0	62.5

調査結果を受けて

【学校では】

- 図形の問題を扱う際に、解答に必要な図形の性質に留まらず、その図形のなかで成り立つ他の性質についても考える活動を増やします。
- 式から解答を求めるだけでなく、式の意味を考えたり、式と図、グラフを関連づけて考えたりする活動を増やします。

【ご家庭では】

- 毎日家庭で、学習内容の復習をする習慣が不可欠です。毎授業の初めに小テストをおこなっておりますので、その結果をご覧になり、励ましや称賛の声掛けをしてください。
- 日常生活における事象に疑問を持ち、解決する経験が学習意欲を高めます。教科書にも多くの例がありますので、ぜひご一読いただき、お子様と一緒に日常生活における数学的事象を探してください。

中学校英語の結果は、正答数だけでなく問題の難易度も考慮した「IRTスコア」で示されています。

《平均IRTスコア》

本校	486
全国	499

《技能別平均正答数》

	聞くこと	読むこと・書くこと	話すこと
本校	1.2 / 2	2.3 / 5	0.8 / 2
全国	1.2 / 2	2.5 / 5	0.7 / 2

※「読むこと」と「書くこと」は、国から提供される結果では一つの区分として示されています。

《強みが見られた問題》

問題 番号	技能	出題の趣旨
1	聞くこと	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる
10(2)	書くこと	社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる

《課題が見られた問題》

問題 番号	技能	出題の趣旨
5	聞くこと	社会的な話題について、話を聞き、要点を捉えることができるかどうかをみる
10(1)	読むこと	社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる

結果 ※◎（強み）、●課題

◎ 音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる力が身に付いています。

● 社会的な話題について、短い文章を読み、要点を理解し、考えとその理由などの情報を捉える力に課題が見られました。

調査結果を受けて

【学校では】

- 生徒が自分のことを進んで伝えようとする言語活動を充実させるとともに、目的や相手を意識して表現する場面を積極的に取り入れていきます。
- 話す・読む・聞く・書くの4技能が相互に関連する活動の実施に重点を置き、一人一人が自分の考えをもち、対話を通して学びを深める授業づくりを進めていきます。

【ご家庭では】

- 音読や単語の書き取りなど日々の積み重ねが力の発揮に繋がる学習について声掛けしたり、励ましたりして、英語に触れる時間を増やすように働きかけてください。
- 英語で学んだことについて話題にしたり、伝えようとする姿を認めたり、勇気づけたりすることで英語に親しむ機会を大切にしてください。